



# デフパペットシアター ひとみニュース

〒211-0035 川崎市中原区井田 3-10-31  
公益財団法人 現代人形劇センター内  
TEL: 044-777-2228 FAX: 044-777-3570  
e-mail: deaf@puppet.or.jp  
URL: <http://deaf.puppet.or.jp/>



画:榎本

新型コロナウイルスの感染拡大、ならびにこの度の豪雨災害により苦しい思いをされている方々に心よりお見舞い申し上げます。

デフ・パペットシアター・ひとみ

榎本トオル やなせけいこ  
鈴木文 増子仁美 加藤埜明  
吉村衣世 中西優樹 池内剛志

## 日々制作... By 吉村衣世



このコロナ禍、各地の実行委員さんの安否も心配だったり、自分自身の生活も戸惑う日々が続いたり、毎日てんやわんやしています。

デフ・パペットシアター・ひとみは2月末の公演を最後に、公演の延期・中止を余儀なくされてきました。事務所でリモートを取り入れたり、マスクを着けながらどろう者メンバーとの会話も難しいので透明マスクを自作したりと、探り探りの状況が続きました。上演の出来る状況がなくなってしまうことは、収入がなくなってしまうということなので、まだまだ劇団は苦境に立たされています。今年の夏から少しずつ公演再開を予定していますが、1つ1つの公演を大切に、お客さんの安全・安心を確保するため努力し続けたいと思います。

私事ですが、緊急事態宣言中はほぼ毎日、2歳の息子とべったりと過ごしました。ちょうど言葉を覚える時期なので、ニュースで毎日流れるコトバを覚えてしまい、「の一こせっしょく!」「ういるしゅ!」と歌ったり、レゴブロックをつなげて「しょどく、しゅっしゅー! (なぜか親の顔にかける)」と遊ぶようになりました。

大人たちは毎日ナーバスに数字を追ったりしている中で、子どもは楽しんで遊びに昇華してしまえるのだなと、そのとき小さな感動を覚えました。一時期はかなり大人が減入ってしまいましたが、緊張下で硬直するのではなく、柔軟に本質は見失わないように、さまざまなことにチャレンジしていくような、したたかさを息子から学んだように思います。

文化の断絶ではなく、時代を映し継承していくのが、私たち芸術団体の役割だと思っています。未来につなげたい。へこたれず、踏ん張っていこうと思います。

デフ・パペのチャレンジを、ぜひ今後とも見守ってください!

## 緊急インタビュー！『新型コロナウイルスとデフ・パペ～いま、そしてこれから～』

やなせ(役者) 森元(アドバイザー)を迎え、色々聞いてみました。

—今日はお集まりいただきありがとうございます。まず、森元さんは今回の状況をどう見ましたか？

森元「コロナ禍について語るのは難しいですね。わたしたちには専門的な知識もないですし……。しかしここに至るまでの僕の経験から言うならば、演劇業界がこれほどの危機にさらされたことは無かったんじゃないかな。確かにここ最近でも大きな災害やリーマンショックのような金融危機はありましたけれど、人を集めて公演をすること自体に問題が生じたのは初めてです。コロナの場合は感染予防を第一に考えなくてははいけませんからね」



—今回の場合は多くの自然災害と違って、いつまで続くのかもわからない。先行きの不透明さも不安に拍車をかけているように思います。いま私たちにできるのはどういふことでしょうか。

森元「みなさん憂鬱さを共有していますよね。いま人形劇団が試されているのは、人間力と文化力。少し乱暴な言い方になるけれど、人形劇というのはつまるところ遊びなんです。で、この遊びというのを辞書で引くと『慰み＝心が穏やかになること』と出てきます。阪神淡路大震災や東日本大震災のとき、避難所の隅っこで小さな人形劇を上演している方々がたくさんいました。こういうことって、人形だからできることでもあるんです。皆がナイーブな気持ちになっているときに生身の人間がズカズカ出ていって芝居をするのはけっこう難しい。人間の存在感というか、生々しさが敬遠されてしまうのかもしれない。人形を通して虚構の被膜を一枚かませることで、生々しさを軽減しながら世界を表現できる。これは人形劇の一つの特性であり、大切な役割だと思っています」

やなせ「その通りだと思います。ただしちょっと話が戻るんですけど、コロナ禍の場合は感染防止も同時に考えなければいけないから、面と向かって人形劇を届けることも難しい。そうすると有効なのは動画の配信かなって思うんです」



—デフ・パペでも動画の配信が始まりましたね。全国公演作品のアーカイブと……

やなせ「わたしがやってる『ぶたさんズ』ね(笑)。これはシリーズ化できればとも思ってた……。というのも、動画を撮るのがけっこう面白いんですよね。このあいだ公開した動画だと、ふだん『音のワークショップ』で遣っている小さな人形を使って撮影したんですけど、例えばワークショップの様子を遠景で録画してあとから見返すことはあっても、小さな人形の動きにズームして撮影することなんてなかった。それが今回はドアップでしょう。シンプルな人形だから遣い方のちょっとしたブレがすごく目立って……。みなさんに楽しんでもらいたくて始めた配信ですが、わたしたちにとってもいい勉強になりました(笑)」

森元「ぼくは動画や機械のことはてんで分からないんだけど、いまやれることにはどんどん挑戦していきたいね」





—アフターコロナという言葉も聞かれなくなってきました。いまは「コロナのある世界を生きていく」という意味でウィズコロナというそうです。実際に感染状況がどう転ぶかは分かりませんが、今後のデフ・パペの展望について考えているところはありますか？

やなせ「わたしとしては、今回の経験で感じたことや得たものを積極的に表現活動に取り入れていきたいかな。それが今後のデフ・パペのあり方を考えることにも通じていくと思いますし……少なくともいまは幸運なことに時間がたくさんありますから、前を向いて活動を続けられるようにじっくりと体制を整えたいです。あと、せっかく始めた動画配信ですから、こちらも続けていきたいですね」

森元『『河の童』で取り上げているような問題もどんどん露見化してきているよね。ソーシャルディスタンスで物理的に引きはがされ、感染の恐怖で心理的に引きはがされ、人間同士がばらばらになると、やがては排除の矛先が弱者を向くことにもつながってくる。だからこそ、地域のみなさんと劇団が手を取り合って一緒に公演をつくっていく、そこにつながりつづける活動が一層大切になってくると思います」  
聞き手：池内(制作)



↑やる気満々の新代表・榎本「がんばるぞ〜〜!!」

<p><b>★デフパペ友の会★</b></p> <p>デフ・パペットシアター・ひとみでは様々な特典のある【友の会】を募集しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年会費             <ul style="list-style-type: none"> <li>個人会員 1500円</li> <li>ペア会員 2500円</li> </ul> </li> <li>・特典             <ul style="list-style-type: none"> <li>デフパペ公演割引</li> <li>グッズお買いものチケット</li> <li>デフパペニュースのお届け</li> <li>オリジナルお誕生日カード</li> </ul> </li> </ul>	<p><b>【寄付・賛助会員について】</b></p> <p>デフ・パペットシアター・ひとみの企画運営をしている(公財)現代人形劇センターでは、人形劇の普及・発展のために様々な活動を行っており、活動に共感いただいている方の参画をお待ちしています。ここでの収益は、デフ・パペットシアター・ひとみを含む現代人形劇センターの活動資金となります。詳細は現代人形劇センターHPまで</p>
--	---

**◆役者募集中!◆**

- 【仕事の概要】**  
全国での人形劇の公演・ワークショップなど
- 【条件等】**
- ・ろう者、聴者は問いません
  - ・手話でお話するのが好きな方  
もしくは手話に興味のある方
  - ・年齢・入団日は応相談

詳しくはデフ・パペットシアター・ひとみHPにて!

カオニャオ(ラオス)×デフ・パペットシアター・ひとみ(日本)

**ろう者の参加する人形劇団による  
共同ワークショップ Part2 in 日本**

2019年からスタートしたプロジェクトの2年目です。自然の素材などのオブジェと身体により、表現の可能性を探ります。

**スケジュール**

- ・9月7日(月)~18日(金)  
共同ワークショップ/ひとみ座スタジオ
- ・9月19日(土)  
成果発表会/川崎市国際交流センター(一般公開)

※新型コロナ感染状況によって延期する場合があります。発表会の詳細については追ってHPで発表します。

日本ろう者劇団×デフ・パペットシアター・ひとみ×カンパニーデラシネラ

**共同創作プロジェクト「野鴨」公演ワークインプログレス**

日本ろう者劇団とデフ・パペットシアター・ひとみが文化庁の委託により2018年度にスタートした長期プロジェクト。1993年の合同公演「幻想視覚劇場 真夏の夜の夢」から25年を経て、身体表現の新たな地平を探究しています。小野寺修二(カンパニーデラシネラ)を演出に迎え、外部からもパフォーマーを公募し、2年間にわたって定期的にワークショップを重ねてきました。2020年度はイプセンの「野鴨」をテーマに作品制作を進めています。デフ・パペットシアター・ひとみからは、榎本トオル、増子仁美が出演しています。

詳細はデフ・パペットシアター・ひとみHPにて。(新型コロナウイルス感染拡大予防のため、要事前予約)

**◆東京公演**

7月19日(日)16:30開演 会場: シアターX  
観覧料:1000円

**◆川崎公演**

7月26日(日)14:00開演 会場: アルテリオ小劇場  
観覧料:一般 1,500円 学生 1,000円 障がい者割引 1,000円

《同時開催》

- ①「音・おと・OTO ~手作り音創りワークショップ」  
2020年7月24日(金・祝)10:30 ※対象:4才~小学生
- ②「身体表現ワークショップ」  
2020年7月24日(金・祝)13:00 ※対象:中学生~大学生  
参加費:①②ともに500円

※参加申込・詳細はアルテリオ小劇場のHPをご覧ください

**その他公演スケジュールは劇団までお問い合わせください**